

新年の歩みと子どもたちの確かな成長

副校長 上野 哲

三学期が始まり、早くも一か月が過ぎようとしています。年明けの緊張感も徐々にやわらぎ、子どもたちが日常のリズムを取り戻しつつある姿を、教職員一同とても嬉しく感じながら過ごしています。今年度も残すところ二か月となりました。子どもたちが一日一日を穏やかに、そして自分らしく過ごせるよう、引き続き丁寧な寄り添ってまいります。

昨年 12 月には、高等部 2 年生が名古屋方面への修学旅行に出かけました。新幹線の乗車や宿泊先での活動など、普段とは違う環境の中で、子どもたちはそれぞれのペースで多くの経験を積むことができました。また、1 月には小学部 5・6 年生の移動教室を実施しました。子どもたち一人一人の成長の芽を感じる場面がいくつもありました。御家庭や福祉園各寮の御理解と御協力に、改めて心から感謝申し上げます。

さて、2 月には、イタリアでミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックが開催されます。世界の舞台上で戦うアスリートの皆さんの姿は、子どもたちにも、我々にも大きな励ましとなることでしょう。スキージャンプの小林陵侷選手は、「ジャンプは一本一本の積み重ね。」と語っています。また、その他にも、スピードスケートの高木美帆選手やフィギュアスケートの鍵山優真選手は、それぞれ、大会中や大会後のインタビューにおいて「練習で積み重ねたことを本番で発揮することの大切さ」について繰り返し語っています。華やかに見える活躍の裏側で、日々の小さな努力や試行錯誤を積み上げているというそれぞれの選手の言葉は、本校の子どもたちの学びの姿とも重なります。たとえ大きく見える壁の前でも、焦らず、自分のペースで“前の一步より少しだけ良い一步”を続けていく、その積み重ねこそが、自信や成功体験につながっていくのだと思います。

年度末に向けて、子どもたちはそれぞれの場所で、確かな成長を見せ始めています。「できるようになったこと」「頑張れたこと」「挑戦してみようとした気持ち」。そのどれもが子どもたちにとって大切な宝物です。私たちはその芽を見逃さず、一つ一つを丁寧に受け止め、次の学年や新しい生活につながる自信へと育てていきたいと考えています。

まだまだ寒さの続く時期ではありますが、どうぞお身体にお気を付けてお過ごしください。今後とも、学校への温かい御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

交流教育について

本校では、交流教育を進めるにあたり、令和 7 年 8 月に本校の学校運営連絡協議会評価委員長の帝京大学教育学部准教授中村晋氏を講師としてお招きし、「一人一人のウェルビーイングの向上と共生社会の実現にむけた交流について～学校間交流及び副籍交流の実践を通して～」をテーマとした公開研修会を実施させていただきました。障害の社会モデルに基づいた「心のバリアフリー」理解の推進、共に学ぶ機会の確保、そのために特別支援学校としてできること、発信していくべきことについて学ぶことができました。

また先日の学校評価アンケートで、副籍交流校より以下のような意見をいただきました。（一部抜粋）
「副籍交流の日は、在校生も教職員も楽しみにしています。学童クラブ等でも仲良く遊んでいると聞いています。これからも、同じ地域の中で一緒に育っていけるよう、交流を深めていけたらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。」

副籍交流、学校間交流等の交流を通し、児童・生徒同士がつながり、児童・生徒の相互理解を深めることで、障害のモデルを知る経験から、地域とのつながりを強化し、共に助け合って生きていく共生社会の実現を目指し、共に考える経験を深められるよう交流教育を推進していきます。

（主幹教諭 後藤淳）